

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第20回「シミュレーションの信頼性」分科会 (A2SC) 議事録

1. 日 時 2023年9月25日 (月) 13:30 ~ 16:00

2. 場 所 オンライン開催 (WebEx)

3. 出席者 (敬称略、分科会委員名簿順)

(出席委員) 中田耕太郎 (主査、東芝ESS)、工藤義朗 (副主査、東京電力)、田中正暁 (幹事、JAEA)、相澤直人 (東北大)、浅見光史 (海技研)、青柳光裕 (JAEA)、大山一弘 (MFBR)、尾崎哲浩 (テプシス)、甲斐芳郎 (J建築セ)、酒井幹夫 (東大)、佐田幸一 (電中研)、鈴木知史 (JAEA)、鈴木喜雄 (JAEA)、巽 雅洋 (原子力エンジ)、長家康展 (JAEA)、永吉拓至 (日立)、羽間 収 (CTC)、藤井康充 (関電)、李 艶栄 (茨大)、淀 忠勝 (MHI)

(欠席委員) 笠原直人 (東大)、鈴木正昭 (中京大)、中村秀夫 (JAEA)、古谷正裕 (電中研)、溝上伸也 (東電)、美原義徳 (鹿島)

※出席委員数 20 名 / 登録 26 名、充足率 : 77% (>67% : 成立下限)

(常時参加者) 加藤達也 (東芝ESS)、東條匡志 (GNF-J)、兵頭秀昭 (NFI)、箕輪 剛 (ANSYS)、山下 晋 (JAEA)、他 1 名

(欠席) 佐方宗樹 (シーメンスPLM)

(オブザーバ) 小坂進矢 (MFBR)

4. 議題

1) 主査挨拶

冒頭、中田主査より、準妥当性確認の具体化に係るタスクグループ設置への期待と、それに対する審議、継続的な協力に関して言及があった。

2) 資料確認・第18回議事録確認

田中幹事から配付資料の確認を行い、前回分科会議事録案 (A2SC-20-2) について紹介し、委員氏名 (長家委員、永吉委員) 及び資料番号等の修正を行った上で承認となった。

3) 常時参加者登録について

常時参加者に、渡嘉敷 幹郎 氏 (東芝ESS) の参加が承認された。

4) 準妥当性確認TFの設置について

田中幹事から配布資料 (A2SC-20-3) に基づき、タスクグループ設立の趣旨及び目的として、核・熱流動・構造などの専門の方々に参加いただき、前回までに議論した準妥当性確認に関するアンケート結果について、その論点を整理し、ガイドライ

ン改定に向けた修正項目について、各専門分野から提言を行うことを目的とする旨、説明があった。また、活動内容及びタスクグループ構成の専門分野について説明があった。なお、専門分野としては、核計算（BWR/PWR/高速炉）、熱流動解析・安全解析（BWR/PWR/高速炉）、耐震・構造を予定している旨、説明があった。また、活動期間は2023年9月から2024年5月を目途とし、会合頻度は2ヶ月に1回程度とすることが紹介された。

質疑において、非常に難しい議論になるであろうことと、複合領域になるプラント設計において、限られた範囲に議論が留まる恐れもあるが、準妥当性確認の使われ方として、実機評価に適用される前提が必要であり、解析コードの名称を具体的に挙げるなど対象を絞り込んだ上で、個別コードへの要求事項を明確にし、実効性のある取り扱いの議論ができることを期待すること。また、個々の事例からの体系化や理想化が課題として残る懸念があり、現行の設計手法と評価プロセスとの関係を把握した上で、実験との対比において、スケーリングや理想化条件の整理を行い、準妥当性確認の適用性を整理する必要があるとの意見があった。さらに、海外（IAEAや米国等）での取り扱いに関する整理も必要ではないかとの意見があった。

以上の分科会での意見を踏まえ、TGキックオフ会合で議論の方向性を進めつつ、議論を深めていくこととなった。また、TGでの議論は分科会にフィードバックし、分科会においても議論を行うことで、TGの設置が承認された。

5) その他

田中幹事から、続いて倫理教育を行うことと、TGを近々招集する予定であることの連絡があった。

6) 倫理教育

中田主査から配布資料（A2SC-20-5（SC92-4））に基づき、令和5年度の標準委員会における倫理教育が行われた。

5. 配付資料：

- A2SC-20-1 議事次第
- A2SC-20-2 第19回議事録（案）
- A2SC-20-3 常時参加登録について（画面共有のみ）
- A2SC-20-4 準妥当性確認タスクグループ設置趣意書（案）
- A2SC-20-5 倫理教育に関する資料（SC92-4）

以上